

## 的場池公園内施設指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 平成 30 年 10 月 24 日（水） 13：00～14：05
- 2 場 所 北九州市役所 5 階 特別会議室 A
- 3 出席者 (検討会メンバー)  
植田構成員、河邊構成員、寺崎構成員、南構成員、宮城構成員  
(事務局)  
市民文化スポーツ局 スポーツ振興課  
スポーツ施設担当課長、担当係長、担当職員

### 4 会議内容

- 応募団体（株式会社スピナ）より提案概要に関してヒアリング。  
(提案書の内容につき説明)
- 応募団体（株式会社スピナ）との質疑応答。

#### (構成員)

- ・試験的に金曜日の体育館の利用時間を延ばしたということだったが、利用者はどれくらい増えたのか。

#### (応募団体)

- ・利用者数が大幅に増加したというわけではないが、仕事終わりの利用者から、好評を得ることができており、利用者サービスの向上に繋がっている。

#### (構成員)

- ・体育館の利用者数は年々増えているが、その一方で、使用料収入は減っている。減免の大会が増えているということか。

#### (応募団体)

- ・そのとおりである。また、夕方までの利用に関しては、一般の利用者数の増加に努めているものの、現状は、使用料の発生しない高齢者の利用で 9 割ほどを占めている。体育館の利用者数は年々増えているが、その一方で、使用料収入は減っていることの原因は、高齢者の利用者数が増加したとしても、使用料収入が増加しないからであると考えている。

#### (構成員)

- ・始業時間は何時からか。

#### (応募団体)

- ・8 時半に職員が出社し、9 時の開館の準備をしている。

#### (構成員)

- ・大会が開催される日も同様か。

**(応募団体)**

- ・大会が開催される場合は、主催者と協議をして、大会の内容に合わせた開館時間を設定している。例えば、中体連の剣道や卓球の大会の開催の際は、7 時頃に出社をして、開館の準備を始め、主催者の指示に従って開館する。

**(構成員)**

- ・雨天時、開館前に体育館に入ることができなかったという話を聞いたことがあるが事実か。

**(応募団体)**

- ・自分たちが、この施設群の管理を始めて以降は、そのような事実はなかったという認識でいる。しかし、主催者側からの指示で、大会の準備のために、役員以外を会場にいれないことはある。施設としては、主催者の希望通りの時間で開館するように対応している。

**(構成員)**

- ・互換パトロールとはどのようなものか。

**(応募団体)**

- ・第三者的な視点から、安全・サービスを確保することを目的としたチェックをしてもらう、全社的な取り組みである。このほかにも、当施設では、北九州スポーツクラブ連絡会や別の NPO 法人にチェックをお願いし、アドバイスをもらっている。異なった視点からの指摘も多く、有効な試みであると考えている。

**(構成員)**

- ・TOTO リモデルフェアを開催したとのことだが、これは、体育館の新しい利用方法になると思うが、内容はどのようなものだったのか。

**(応募団体)**

- ・TOTO が体育館全体にブースをつくり、商品等の展示をしたようだった。

**(構成員)**

- ・このようなスポーツ以外での利用は他にあるのか。

**(応募団体)**

- ・基本的にはスポーツ優先で運営しており、土・日・祝日は、スポーツに関する大会で、ほぼ利用がうまっている。しかし、日程が合えば、この展示会のようなスポーツ以外の利用も実施している。

**(構成員)**

- ・メンタルヘルス講座に関して、1 日のみのイベントなのか、それとも、通年的に開催されるイベントで、データが蓄積されるようなものなのか。

**(応募団体)**

- ・血圧診断に関しては、定期的実施している。メンタルヘルス講座に関しては、始めたばかりのイベントなので、定期的実施していない。今後、スポーツ&健康フェスタの中に取り入れることを検討している。

**(構成員)**

- ・CS 活動に関して、2 点、悪い事例を挙げているが、他に悪い事例はないか。

**(応募団体)**

- ・利用者から、体育館の利用種目に関するクレームがあった。自分たちが施設を管理し始める以前は、共用利用日に、体育館をバレーボールと卓球の 2 種目で、開放しており、バレーボールのボールが卓球をするスペースに転がって危ない等のクレームが発生した。これ

を受け、現所長が、利用種目別に様々な組み合わせを考え種目を決めたところ、利用者同士のトラブルがなくなった。実際の利用者は高齢者が多いため、ちょっとしたボールでも踏んで転んでしまう方が多い。特に、当体育館の共用利用では、バウンドテニスやパドルテニスなどボールを使う種目が人気であるため、他の種目での利用者の安全性を損なう可能性がある。それを未然に防ぐ工夫や種目の組み合わせは常に検討し、実施している。また、現在、熱中対策として、熱中症の危険度の周知を市内のどの施設でも実施しているが、その周知を始めたのは自分たちであり、提案者は、現所長である。当施設では、ただの注意喚起ではなく、危険度を数値化した注意喚起を実施している。

**(構成員)**

- ・クレームに関する報告会を月に1度実施しているとのことだが、クレーマーへの対応はどのように行っているか。

**(応募団体)**

- ・当施設では、そのようなクレームは少ない印象だが、年に、数件はある。特に、ルールを変更しなければ、実現不可能なクレームもあるので、話を最後までしっかり聞き、現状のルールを丁寧に説明するようにしている。自分の要求が通らないと、納得しない方も多いため、その場合は、本社・市と協議して回答をするようにしている。時間をおいて話をすることで、納得してもらえる場合もある。

**(構成員)**

- ・施設スケジュールと利用者調整について、大会の進行状況に応じた調整を実施しているようだが、その調整は、当日の調整となるため、職員の負担が大きくなると思う。実際にそのような調整をすることが、利用者数増に繋がっているのか。

**(応募団体)**

- ・そのとおりである。共用利用での利用希望の問合せが非常に多い。大会に関しては、昼を過ぎた段階で終了時間の目途がつくため、問い合わせ主に対しては、その時間帯に、再度、施設に連絡するようにお願いをしている。この施設の運用方法は、利用者の中で浸透してきている。実際に、大会が終了した後の共用利用に関しては、満員になるほど、利用者がいることも多い。自分たちが管理を始める前は、大会の後は、共用利用での開放をしていなかったが、利用者サービスの向上のために、現在のような運営をするようになった。

**(構成員)**

- ・ある企業が一括購入をした際に、在庫を紛失させてしまったという話を聞いたことがあるが、消耗品等を一括購入する際の弊害はないのか。

**(応募団体)**

- ・紛失に関しては、毎月、棚卸の際に、在庫管理をおこなっているため、そのような事実はない。その他の弊害も特にない。

**(構成員)**

- ・北九州スポーツクラブ連絡会とどのような連携をして事業を実施しているのか。

**(応募団体)**

- ・講師の派遣や大会の企画等で連携を図っている。また、北九州スポーツクラブ連絡会の会員を外向してきた職員として、スピナで受け入れている。その会員は、スピナの社員として、これまで培ってきたノウハウを発揮している。

### **(構成員)**

- ・そのような形で連携をしているため、北九州スポーツクラブ連絡会との関係は、収支計画書上見えてこないということか。また、冒頭で八幡西区南部のスポーツの拠点という説明があったが、実際は、どのエリアの団体や住民が利用しているという認識でいるか。

### **(応募団体)**

- ・そのとおり。共用利用での利用者に関しては、八幡西区周辺の利用者が多い。専用利用に関しては、市内各所から集まってきている。地域の幼稚園の方々が使うケースもある。

### **(構成員)**

- ・認知度の拡大を図る手段として、全市的な広報に力を入れている提案となっているが、整合性はあるか。また、このような効果的な広報がもたらす利用希望の増加による弊害はないのか。

### **(応募団体)**

- ・実際に、施設に来てもらうことに関しての広報は続けていくが、八幡西区の住民の方々の当施設の認知度は十分にあるという認識である。また、他地域の利用者を獲得することが、自分たちが提案している、市民のコミュニケーションの場の提供という部分にも繋がると考えている。この他に、スポーツ&健康フェスタ等のイベントにも、より多くの方々に参加してもらいたいという意図もある。これらのことから、今後も、広域的な広報活動が重要になると考えている。利用者数増加の弊害については、共用利用の時間を確保することが難しくなるという点にある。指定管理料を減らすべく、自主事業を展開したいという思いもあるが、その時間を設けることが難しい。体育館のアリーナに関しては、大会等の開催に伴い、土・日・祝日の稼働率が 95%以上もある。残りの 5%のスケジュールについては、共用での利用者の希望に添えるような調整を心がけている。具体的に、体育館のアリーナ以外にも、視聴覚音楽室等もあるので、アリーナの代わりにそこの利用の提案をする場合もある。このような相談を利用者にしながら、効率的な施設の利用を模索している。

### **(構成員)**

- ・高齢者に優しい施設を目指すとのことだが、1人住まいの高齢者に対する対応など考えているのか。

### **(応募団体)**

- ・1番有効的な手段は、声掛けをすることであると考えている。しかし、自分たちが、直接、家に行って声掛けをするのは難しいため、施設利用者に対して、「仲間を広げるために、ひと声かける」ようなことを伝えることが、一番効率的な手段なのではないかと思う。

### **(構成員)**

- ・老人会との協力は。

### **(応募団体)**

- ・別で指定管理をしている、若松のひびきコスモス運動場の利用に関して、老人会と連携を取っており、効果も示しているので、この取り組みは、管理する全施設で行っていかうと考えている。また、今後、情報発信に関して、市民センターとの相互協力ができるように、働きかけを行っている。

- 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換。

#### **(構成員)**

- ・利用者の増加、および施設の有効活用のために、細やかな気配りをしている。施設の設置目的の達成に向けた取り組みの項目に関して、他の施設群と比較した場合を考慮する等、利用者数の要求水準の達成以外の点で、もう少し評価できるような仕組みを市として考えてほしい。

#### **(構成員)**

- ・提案内容の全ての項目に関して、よく考えられており、卒がない。自社の特徴を生かした経費削減策を提案できている。責任者の気配り、目配りが生きている施設であるという印象を受けた。

#### **(構成員)**

- ・プレゼンテーションや提案内容への質問に対する回答が的確であり、内容的に安心できる企業であると感じた。

#### **(構成員)**

- ・高い熱意を感じ、施設の管理・運営に関しても工夫された取り組みが期待できると感じた。また、組織力の発揮を通じた、施設の管理に・運営に非常に大きな期待ができる。

#### **(構成員)**

- ・全部 5 をつけたくなるくらい、最初から最後まで素晴らしい提案をしている印象。施設の責任者の競技者同士のトラブルへの対応の話から、責任者は、現場をよく理解できている感じが伝わってきたので、安心して、任せられる企業であると感じた。

#### 5 検討会としての検討結果について

各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての各審査項目の評価レベルを下記のとおり、決定した。

##### 1 指定管理者としての適性のうち、

- (1) 施設の管理運営に関する理念、基本方針については、4
- (2) 安定的な人的基盤や財政基盤については、4
- (3) 実績や経験などについては、4

##### 2 管理運営計画の適確性に関する有効性のうち、

- (1) 施設の設置目的の達成に向けた取り組みについては、4
- (2) 利用者の満足度については、4

##### 効率性のうち、

- (3) 指定管理業務に係る経費については、4
- (4) 収支計画の妥当性及び実現可能性については、3

##### 適正性のうち、

- (5) 管理運営体制などについては、4
- (6) 平等利用、安全対策、危機管理体制などについては、4

- ・利用者の増加及び施設の有効活用のために、細やかな気配りをしていることや自社の特徴を生かした経費削減策の提案は評価できる。総合的にみて、高い熱意を感じ、組織力の発揮を通じた、施設の管理・運営に非常に大きな期待ができると思われ、的場池公園内施設の業務を行うのに十分な適格性を有していると考ええる。